

平成25年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(石井地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**平成25年度 第1回
まちづくり懇談会《石井地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《石井地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成25年6月27日（木）午後7時00分～午後8時30分
- 2 開催場所 石井地域コミュニティセンター
- 3 参加者数 45人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当参事，東市民活動センター所長，土木管理課長，広報広聴課長

5 懇談内容

(1) 地域代表あいさつ

石井地区連合自治会・石井地区まちづくり推進協議会会長

(2) 市長あいさつ

(3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所 管 課
1	地域内交通と公共交通ネットワークづくりの住民参加について	交通政策課 L R T整備推進室
2	史跡石井河岸鬼怒川河川公園の設置について	公園管理課 文化課 交通政策課

(4) 総合計画の6つの柱に基づく意見交換

テ ー マ		
市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために (1) 保健・医療サービスの質を高める (2) 高齢期の生活を充実する (3) 障がいのある人の生活を充実する		
No.	意 見	所 管 課
1	身近な場所での運動事業の推進について	スポーツ振興課

(4) 自由討議

No.	意見	所管課
1	LRTについて	LRT整備推進室
2	自転車教育について	生活安心課
3	鬼怒ふれあいビーチについて	公園管理課
4	鬼怒川右岸への河川公園の整備について	公園管理課
5	防災無線の設置について	危機管理課
6	避難場所について	危機管理課

(6) 来賓あいさつ

地区居住市議会議員 増渕 一基 氏

(7) 市長謝辞

■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	地域内交通と公共交通ネットワークづくりの住民参加について
-----	------------------------------

公共交通については、住民参加による「おらがまちの公共交通をつくっていく」という意識の醸成が必要であろうかと思う。

昨年5月だったと思うが、東部ブロックの自治会連合会が市議会に「東部地区の公共交通を良いものにしてほしい」という陳情書を出した。昨年6月の市議会で採択され、現在検討が進められ、まもなく良い方向での案が出てくると思うが、その活動を母体にして、行政と自治会が一緒になって、地域内交通及び公共交通ネットワークを「お互いに考える」、「意見交換をする」、「何かを提案する」という会ができれば良いと思っている。特に、石井、陽東、平石地区が一つの組織になって活動するということが、一つの方法としてあるのではないかと思うので、提案したい。

また、石井地区の東南部は、通学や通院、買い物に行こうと思っても、公共交通機関がない。しかも、その地区は、高齢化が進んでいる。現在、宇都宮大学の東門から卸売団地を循環している東野バスがあるが、宇都宮大学の方から来ると、問屋町の交差点を左折して、久保田自治会の公民館を通り、医王寺のところの久部街道を左折し、宇都宮大学の東門に戻るといって、バス路線の延長を是非お願いしたい。これについても、石井地区の自治会長が連名で、東野バスの社長あてに要望書を出した。

是非、市長をはじめ、行政の力添えをいただき、早く実現できればと思うので、尽力をいただきたい。

回答	所管課：交通政策課、LRT整備推進室
----	--------------------

【市長】

宇都宮には、東武線とJR線が南北に走っているが、東西の基幹公共交通がない。東西基幹公共交通をつくらないと、バス路線を増やしたり、地域内交通を各地区につくっても意味が無いということになるが、宇都宮の財政では地下鉄や鉄道をつくることはできない。そこで、鉄道と何ら変わらず、速達性も定時性もあり、朝夕の利用客が多い時間帯には車両を増やすことができるLRTを横軸に通し、バス路線や地域内交通を加え、宇都宮全域に公共交通の網をかぶせるという街をつくっていきたいと思っている。

現在、宇都宮には3社のバス会社があり、赤字路線が多いが、バス路線が無くなると、通勤や通学に困ることになるので、行政が年間1億円の赤字を補填し、バス路線を維持している。バスの路線は事業者が決めているが、使い勝手が悪いと利用者が減り、それを補うために料金が上がり、さらに利用者が減るという悪循環が起きていることから、地域内交通は皆様に路線や料金を決めていただきながら進めている。

「地域内交通と公共交通ネットワークづくりに関する意見交換・提言の会」については、是非、市民の皆さんに立ち上げていただき、そこに行政が参画をして、市民の

皆様の声と考えをもとに積み上げていくという形ができればと思うので、お願いしたい。

また、東野バスの路線が延伸すれば、便利になると思う。宇都宮市では、今年の1月から、東側については、平松本町地区などの公共交通空白地域を通る路線、西側については、市役所から西原小学校、ユニオン通りの中を通る路線の実験を始めている。

東野バスには直接お願いしたいと思うので、後日、報告させていただく。

【後日回答】

当該バス路線の延長については、バス事業者に対して検討を依頼したところ、「採算に見合う利用者数の確保が困難である」ことから、現状では、実現は難しいとの回答をいただいたところである。

公共交通の実現に向けては、本市における総合的な交通ネットワークの構築を図る中で、石井地区においても、住宅の立地状況や地域特性も踏まえ、地域にふさわしい公共交通のあり方について、地域の皆様と意見交換させていただきながら検討していきたいと考えている。

■地域代表意見 2（要旨）

テーマ	史跡石井河岸鬼怒川河川公園の設置について
-----	----------------------

江戸時代、鬼怒川上流域には、右岸に石井河岸、左岸に阿久津河岸、板戸河岸、道場宿河岸、鑓山河岸、柳林河岸、粕田河岸の宇都宮藩公認の七河岸（七河岸体制＜柳林河岸仙波家文書＞）があった。右岸石井河岸（現在の石井町下川岸鬼怒川辺）は、後背地に宇都宮の町を控え、宇都宮城の外港河岸として、江戸前期より明治時代鉄道が敷設される頃まで、氏家の阿久津河岸とともに最後まで多いに栄えたと記録されている。また、石井河岸は、宇都宮と江戸を結ぶ物流の中心地（川の港）としてばかりでなく、現在の石井街道が明治18年に開設されるまでの間、宇都宮と水戸を結ぶ水戸街道の渡船場としても栄え、吉野家、銭湯屋、豆腐屋、甕屋、桶屋等の屋号が今でも残っている。

さらに、現在、下河岸鬼怒川土手下には、治水に武田信玄が考え出したといわれる大水時の防堤「川の牛」の流れを汲む『かけし（三角水制）』が宇都宮で唯一残されている。鬼怒川は、今、当たり前のように存在しているが、多くの人達が訪れる歴史と文化、雄大な自然を持つ宇都宮最大の宝物の一つであることをあらためて認識する必要がある。

そこで、現在、宇都宮で唯一「かけし」が残る下川岸石井河岸跡に「史跡宇都宮城外港河岸石井河岸ここにありき」の碑を立て、かけし跡並びに石井桜つつみ鬼怒川土手下を「史跡石井河岸鬼怒川河川公園」として整備してくださるよう切に要望する。

なお、整備要望地南側は、現在、鬼怒川緑地運動公園鬼怒ふれあいビーチ用に掘削された流れ、散歩道などが放置されたままの状態となっており、不法投棄の場ともなっている。ついては、自転車のまち宇都宮の名にふさわしく、整備要望地南側部分を自転車、サイクリング用公園として再整備し、合わせて、子ども、高齢者用の小運動場もつくっていただきたく要望する。

宇都宮市内を流れる鬼怒川を挟み、上流域にさくら市、下流域に真岡市がある。さくら市には、宇都宮藩公認の阿久津河岸があった。宇都宮市から阿久津大橋を渡ると、奥州道中氏家宿の看板が目に見え込んでくる。すぐに阿久津河岸を説明する船玉神社、浮島地蔵尊、与作稲荷神社の案内版がある。そして、すぐ北側に阿久津河岸などを説明するさくら市ミュージアムがある。その一帯には、さくら市の河岸、歴史を後世に残そうという気概が感じられる。真岡市にも宇都宮藩公認の河岸やその他有名な河岸があり、柳林河岸、上大沼河岸、大沼河岸に「江戸期ここに河岸ありき」の碑を建て、江戸期に栄えた河岸の歴史を後世に伝えている。

今回の鬼怒川の歴史公園の回答には、理屈はいらない。地域の歴史を市民に伝え、後世に残していくことは重要なことである。明快な回答をお願いしたい。

回 答	所管課：文化課、公園管理課、交通政策課
------------	----------------------------

【市長】

「史跡宇都宮城外港河岸石井河岸ここにありき」の碑を立てることについては、どのようにすれば碑を立てることができるか検討したが、行政が設置するとなるとそれなりの理由が必要となる。このような碑が立っている市もあるが、鬼怒川を管理する国土交通省の管理エリアから離れた民有地に、地元の皆様が立てているようである。国指定の史跡等においてその名称を刻んだ石碑を立てることはできるが、未指定の石井河岸については、碑を立てることは難しいと考えている。

河川公園の整備についてであるが、整備要望地は、平成元年に鬼怒川河川整備計画がつくられ、現状の自然環境を維持していく保全ゾーンに位置付けられている。栃木県からも平成19年に鳥獣保護区に指定されており、市としては、現状の自然環境を保全しながら、後世に残したいと思っている。

整備要望地の南側は、緑のふれあいゾーンに位置付けられており、散策空間として、散策路やベンチを整備し、バードウォッチングなどが行われている。また、緑地運動公園として整備した多目的広場において、グランドゴルフが行われているほか、鬼怒川の左岸になるが、今年度拡張を予定している清原水辺の楽校においても、地元の皆様がペタンクなどを行っている。このような場所を、現状のまま、お子さんから高齢者まで御利用いただきたい。

また、南北に走っている鬼怒川サイクリングロードは、距離も長い。自転車のまち宇都宮ということで、道場宿緑地運動公園ではブリッツェン等が主催し、周回レースが開催されている。

これからも、鬼怒川の良さを後世に伝え、守っていききたい。

■総合計画の6つの柱に基づく意見交換（要旨）

テーマ	市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために (1) 保健・医療サービスの質を高める (2) 高齢期の生活を充実する (3) 障がいのある人の生活を充実する
-----	--

総合計画は、宇都宮市がこれからどのようなまちをつくっていくのかという方向性を定め、それに向かって取り組んでいくための指針である。宇都宮市における「まちづくりの最も基本となる計画」であり、第5次総合計画の後期計画を策定した。

(1) 保健・医療サービスの質を高める

本年度、宇都宮市で100歳以上になる方は222名おり、女性が186名、男性が36名である。健康寿命を伸ばしながら、長生きをしていただけるように、保健・医療サービスの質を高めていきたいと考えている。

特に総合的な自殺予防については、関係機関や団体と連携を強化していくということを計画にあげており、メンタルヘルスに力を入れるとともに、病院にアンケートをお願いし、何故自殺を図ろうとするのかを調査しながら、自殺予防対策を行っていきたい。

また、救急医療体制については、栃木県がドクターヘリを導入したが、1機しかないのので、都合良く使用するというわけにはいかない。宇都宮市としては、二次救急医療を充実させようということで、救急搬送に三つの病院が輪番制で対応していたところを、五つの病院での輪番制にするとともに、この五つの病院に協力していただける病院の支援体制も平成21年7月に整備した。そうすることによって、救急車が病院との調整に時間をかけず、なるべく速く搬送先の病院に到達することができるように、二次救急医療の強化を図ったところである。

夜間休日救急診療所についても、医師不足や看護師不足という課題はあるが、しっかりとした体制を整え、円滑に運営ができるようにしていきたいと思う。

(2) 高齢期の生活を充実する

なるべく介護を必要とせず、介護が必要であったとしても軽い介護で、自分で生活ができ、楽しい生活を送ることができるようにするためには、やはり生きがいをつくる必要があることから、みやシニア活動センターをつくった。

みやシニア活動センターでは、登録していただいた方に対して、市民や団体の要望と照らし合わせ、現役時代に培った経験を生かしていただき、生きがいをつくっていただくということを行っている。

また、高齢者の外出支援として、公共交通の充実や認知症高齢者のケア体制に取り組んでいる。

(3) 障がいのある人の生活を充実する

障がいのある方は、若い方も年配の方も、自分の生活に不安を持っている。特に障

がい児の保護者は、子どもの将来について不安を持っているので、しっかりと就労支援を行い、自立して生活できるという体制を整えていかなければならない。宇都宮市としては、福祉施設でつくられた商品や作品をなるべく高く購入していただけるような体制づくりやなるべく高い賃金で働けるような体制づくりに力を入れようとしている。市役所の中にも「わくわくショップU」があり、障がい者の方が作業所で作った食品や工芸品などの販売を行っている。

障がい者の方が生活しやすくなるような、地域での見守り支援体制も、市民協働の社会の一つとして、これからお願いしていきたいと考えている。

発言 1 身近な場所での運動事業の推進について

保健・医療サービスの充実について、身近な場所での運動事業の推進とあるが、もう少し具体的な内容を伺いたい。

また、石井地区では、来年、総合型地域スポーツクラブの設立を予定しており、市からアドバイスをいただき、着実に進んでいる。モデル地区の泉が丘では、かなり会員を増やし、補助金もかなりつぎ込まれているが、年度末になると赤字で苦しいという話を聞くので、市からの広範囲で具体的なアドバイスをお願いしたい。

回答 所管課：スポーツ振興課

【市長】

保健センターや保健師が常駐している地区市民センターでは、運動や趣味に関する講座を開催している。また、散歩の途中に最寄りの公園で簡単な運動ができるよう、公園に高齢者のための健康遊具の設置を始めた。

総合型地域スポーツクラブは、12、3年前に国が提唱し、サッカーくじを財源として各地区で設立しようということだったが、経営難に陥ってしまい、ほかの都市では休止や廃止するクラブが出てしまった。

宇都宮市では、泉が丘の友遊いずみクラブがスタートしていたことから支援を打ち切ることにはできないということと、健康寿命を伸ばし地域の意識の醸成を図るにはスポーツが重要ということから、総合型地域スポーツクラブへの支援を続けている。行政が手を引くということはないので、行政からの補助金等を活用していただき、地域の中で無理なく運営していただきたい。

石井・峰・陽東地区に総合型地域スポーツクラブが設立されれば、市内に7クラブあることになるが、行政としてもしっかりと支援していくので、不安なことや要望があれば相談いただきたい。

■自由討議（要旨）

発言 1 LRTについて

新聞にLRTを12kmで整備した場合の利用者は13,740人とあり、15kmで整備すると44,900人、収支は単年度でも12kmで1,000万円の黒字、15kmなら何億円かの黒字と掲載されていた。どこから、だれが乗れば、このような数字になるのかについて、具体的な説明を伺いたい。

また、昨年11月の別の新聞には、省エネタイプのトロリーバスの記事が掲載されていた。このトロリーバスは、ブレーキをかけると、電気に還元される仕組みになっている。今までトロリーバスの話は聞いたことがないので、どのように考えているのか伺いたい。

回答 所管課：LRT整備推進室

【市長】

LRTの利用人数については、10数年前の数値であることから、精査するための調査に入っていきたいと思っている。収支については、利用人数が減っても、黒字を確保できるようになると思うが、この事業は黒字とか赤字とかで行うものではないと考えている。宇都宮の魅力を高めることによって、企業や人が集まり、経済波及効果が期待でき、あるいは、高齢者の方が健康寿命を伸ばすことにより、介護費が抑制できるということも期待できると思う。さらに、環境問題になっているCO2などの排出も、抑えられると思う。LRTの整備については、このような大きな経済的な効果を尺度にしていきたいと考えている。

また、トロリーバスや2両連節のバスなどもLRTに代わって選択できるのではないかということについてであるが、LRTは利用者が多くても対応でき、到着時間の定時性もあり、車両からCO2も出ない。接続バスは、CO2を排出するし、接続バスやトロリーバスは、走行レーンに車が入り込み、定時性が確保できないことなどの問題がある。現在のバス路線よりは良くなると思うが、このような問題を考慮し、東西の基幹公共交通としては、一番効果的で、宇都宮市の財政の中でできるものとして、LRTを選択した。車両については、蓄電式のものや、海外の例では、レールから電気を供給して走行するものもあり、景観を守る区間に、このような車両を採用することも考えられる。

今後もLRTの整備を進めていきたいと思うが、各地区でオープンハウスを開催し、どのような疑問でも、直接1対1で答えられるような対応を続けていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

発言 2 自転車教育について

朝夕の学生の自転車のマナーが、無法地帯のような状況になっている。これは学生

が悪いというわけではなく、積極的に自転車教育を進めてこなかった地域に問題があると思う。

自転車教育について、現在、市ではどのような教育を行っているのか。また、将来にかけてどのように動いていくのか伺いたい。

回 答	所管課：生活安心課
------------	------------------

【市長】

小学4年生に免許制度を導入しており、安全教室を開き、子どもたちに自転車の乗り方を教えている。また、プロスポーツチームのブリッツェンに学校を訪れていただき、自転車安全教室において、自転車の正しい乗り方や自転車に乗っていないときの歩き方を教えていただいている。

また、登下校時に、交通指導員や市の職員、学校の先生が警察と一緒に、定期的に指導を行っている。

発 言 3	鬼怒ふれあいビーチについて
--------------	----------------------

鬼怒ふれあいビーチが無くなって、もう2年ぐらいになると思うが、もう2度と整備するつもりはないのか。

回 答	所管課：公園管理課
------------	------------------

【市長】

鬼怒ふれあいビーチは、地域の皆様の御協力をいただき、市民の皆様から大変好評であった。しかし、鬼怒ふれあいビーチは、ゲリラ豪雨や台風などで流されてしまうため、国土交通省からも支援をいただきながら、毎年、オープンに間に合うように修繕してきたが、財政の維持が難しくなったこと、北関東自動車道が開通し海まで近くなったことから、鬼怒ふれあいビーチを閉鎖するという判断に至った。

悪天候があってもビーチが流されないような技法や地域の皆様の強い要望があったときには、再度検討することもあるが、現状ではふれあいビーチを維持できないということで、閉鎖という結果になった。

発 言 4	鬼怒川右岸への河川公園の整備について
--------------	---------------------------

河川公園として、道場宿や石井緑地、水辺の楽校などがあるが、全部左岸につくられている。石井地区から行く場合、橋を渡っていくことになるが、水辺の楽校に行く高齢者から車が危ないという話を聞いている。

何故右岸につくってもらえないのか。これからは、右岸につくってもらいたい。

回 答	所管課：公園管理課
------------	------------------

【市長】

河川公園の整備には、様々な制約があり、なかなか整備することができないが、右岸に河川公園があっても良いと思うので、国土交通省下館河川事務所と直接話をし、結果を報告したい。

【後日回答】

鬼怒川の河川敷については、広く市民の皆様に御利用いただくため、右岸には、「柳田緑地」、「鬼怒川緑地運動公園」(多目的広場、バーベキュー広場)、左岸には、「道場宿緑地」、「石井緑地」、「きよはら水辺の楽校」を整備してきたところである。

また、今年度は、石井、陽東、平石、清原地区の各連合自治会からの要望により、「きよはら水辺の楽校」において、ペタンク等で利用されている「多目的広場」を拡張する予定であり、今後とも、多くの市民の皆様に御利用いただければと考えている。

鬼怒川右岸における河川公園の御要望については、河川管理者である国土交通省下館河川事務所にお伝えしたところである。今後の整備については、「きよはら水辺の楽校」などの利用状況を踏まえ、国土交通省と協議しながら改めて検討していきたいと考えている。

発言 5 防災無線の設置について

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災のときに、停電になって電話も通じなくなり、連絡をとることもできなかった。そこに行けば情報が入るといような場所があればと思うので、防災無線の設置をお願いしたい。

回答 所管課：危機管理課

【市長】

災害の情報や被災の状況、支援の必要性の有無、市民の皆様の避難誘導等について、相互に情報交換できるよう、昨年、予算を計上し、各地区市民センターや小中学校、消防団の詰め所に MCA 無線を配備した。MCA 無線は、普通の無線とは異なり、同時に情報交換を行うことができる上に、一斉に情報を発信することもできる無線なので、これが活用できると思う。

発言 6 避難場所について

石井町から学校までの距離が約 2km 以上あるが、安全安心という看板を掲げるには、その間の避難場所が少ない。避難場所が足りているのかについては、十分には把握していないが、現状では多目的広場みたいな遊び場所ができれば良いという感じがする。自治会ごとに、地元から学校までの間で、地震などの災害が起きた場合に、避難できる場所が少ないと思う。公園を兼ねた避難場所がほしい。

回答 所管課：危機管理課

【市長】

後日、明確な回答を差し上げたい。

【後日回答】

本市では、地震などの大きな災害が発生した場合に、一時的に避難し、様子を見る場所として、空地が少ない市内中心部を対象に公共施設等を「一時避難場所」に指定しているが、緊急時には、自分の身を守ることが最優先であることから、市の指定にかかわらず、近隣の空き地や田畑などに身を寄せていただきたいと考えている。

今後とも、本市の防災行政に御協力をお願いしたい。